

(活動報告)

保健師基礎教育における地域診断の学内演習と臨地実習の学び

榊原千佐子¹⁾ 御田村相模¹⁾

I. はじめに

保健師が行う地域診断については、平成 25 年 4 月に厚生労働省は「地域における保健師の保健活動」として「地域における保健師の保健活動に関する指針」に具体的な方針を示した。その具体的方針の一つとして「保健師は、地区活動、保健サービス等の提供、また調査研究、統計情報等に基づき、住民の健康状態や生活環境の実態を把握し、健康問題を構成する要素を分析して、地域において取り組むべき健康課題を明らかにすることにより、その健康課題の優先度を判断すること」と、保健師の必要不可欠な資質として明記されている（厚生労働省、2013）。

活動領域に応じた保健活動の推進においても、都道府県等の保健師に対して「保健師は実態把握及び健康課題の明確化にするため地域診断を実施し、地域において取り組むべき健康課題を明らかにするとともに、各種情報や健康課題を市町村と共有すること」、市町村保健師に対しては「実態把握及び健康課題の明確化にするため地域診断を実施し、市町村において取り組むべき健康課題を明らかにするとともに、各種情報や健康課題を住民と共有するよう努めること」といずれの場合も保健師活動の前提として地域診断を行うこととされている（厚生労働省、2013）。しかし保健師の活動状況は地域診断に十分な時間を費やしているとは言い難い。「平成 21 年度・平成 24 年度・平成 27 年度保健師活動領域調査（活動調査）の結果について」からは常勤保健師の活動状況から保健師一人当たりの「保健福祉事業」割合は市町村 54.4%（平成 21 年度）、51.2%（平成 24 年度）、51.0%（平成 27 年度）であり、地域診断を含む「地区管理」活動割合は市町村 9.1%（平成 21 年度）、9.1%（平成 24 年度）、8.2%（平成 27 年度）と、保健福祉事業の基となる「地区管理」活動は活動調査に占める割合も低く減少傾向にある。

金川ら（2015）は地域看護診断を地域で生活している人々を対象とした看護活動では、対象となる人々や地域の問題を明らかにし、それらを解決し、良き方向に導くことであると、保健師活動における地域診断の意義を示している。また標ら（2017）は地域診断の目的は個人・家族、地域全体の顕在的・潜在的な健康課題を把握し、その原因・背景を明らかにしながら解決方法を見出していくことであり、公衆衛生看護活動の基盤であると示している。保健師活動の実践と看護基礎教育で学修する地域診断の乖離について、牛尾（2014）は学生が学ぶ体系化された技法を用いた地域診断を学びながらも、実践との結びつきを十分に実感できない学習となることを指摘している。金屋ら（2016）は現状の演習・実習において学生が主体的に行うのは健康課題の抽出までであり保健事業計画の策定、実施、評価の体験不足を指摘している。これらのことから、保健師基礎教育の公衆衛生看護学としての地域診断の学修過程では、関連項目に関する情報収集に翻弄され、健康課題とその対策を導き出すまでに至らない場合が多いと考えられる。

看護基礎教育の中で学部での保健師教育の地域診断について、学内演習した学習成果物が公衆衛生看護学実習中の地域診断の修正結果から、学生が地域診断についてどのように学修できたのかを振り返り、今後学部の保健師教育と保健師活動の実践に生かしていきたい。

II. 地域診断に関する演習と実習の学習過程について

1. 公衆衛生看護学の学習過程

朝日大学保健学部看護学科では 4 年次前期に保健師教育課程の学生 15 名を対象に、「公衆衛生看護活動

1) 朝日大学保健医療学部看護学科

論Ⅰ(地域診断と活動)」2単位、「公衆衛生看護活動論Ⅱ(ライフステージと活動)」2単位、「公衆衛生看護活動論Ⅲ(健康課題と活動)」2単位の講義と演習科目が開講され、引き続き5単位の公衆衛生看護学実習が開講される。公衆衛生看護学実習の実習施設は、都道府県保健所、市町村保健センター、地域包括支援センター、小中学校、病院健診センターで、それぞれに保健師が配属されている部門である。

2. 「公衆衛生看護活動論Ⅰ(地域診断と活動)」の概要

1) 科目概要

地域の特性を踏まえて保健活動をするためには、地域を十分に把握しておく必要がある。このため、地域診断のプロセスを踏み、地域住民の生活実態や住民を取り巻く環境をとらえ、地域に関する情報収集と情報分析をして、地域住民の顕在的、潜在的な健康課題を明らかにする。分析のための資料は、市町の既存資料やウェブ等より情報を得る。実習施設別でのグループワークを行い、情報と分析結果、健康課題を抽出し保健事業との関連を理解する。

2) 到達目標

- (1) 地域における対象(個人・家族・集団および地域)をとらえる視点を説明できる。
- (2) 地域診断における一連のプロセスを説明できる。
- (3) 対象地域の特性を踏まえた健康課題を明らかにし、健康課題に対する対策の目標と具体策を説明できる。

3) 科目の展開

公衆衛生看護活動論Ⅰ(地域診断と活動)(以下、「活動論Ⅰ」と略す。)の学習過程はコミュニティアズパートナーモデル(Elizabeth T. Anderson & Judith McFarlane, 2002)を用いて理論を学び、既存の資料として、学生にはそれぞれの市町の管轄保健所の前年度事業報告書や実習施設の保健事業報告書を配布した。また実習施設のホームページ上の情報を既存資料として活用した。

3. 公衆衛生看護学実習における地域診断学習内容

1) 実習目的と地域診断の実習目標

公衆衛生看護学実習(以下、実習と略す)の目的は「地域の特性や社会資源、地域ケアシステムなどを理解し、地域に住む個人・家族・集団・地域(コミュニティ)の健康課題を解決する保健活動の展開や多様な場における保健師の役割と保健活動方法の実際を学ぶ。」とした。また市町村保健センターの実習目標では、地域診断について「地域診断に必要な情報を収集・分析し、地域の健康課題を明らかにし、その解決・改善策を立案、実施及び評価する過程を修得できる。(抜粋)」とした。地域診断の学習は母子保健と成人保健に関しては主に市町村保健センターで行い、高齢者保健については地域包括支援センターで行った。

Ⅲ. 学生の地域診断と公衆衛生看護学実習の学びについて

学生は活動論Ⅰの演習では地域のライフステージ別の学習に沿って母子保健、成人保健、高齢者保健に分類して既存の資料から情報を抽出し、「健康課題」を抽出し「対策」の方向性を分析した。

1. 演習時の地域診断の学びについて

活動論Ⅰの演習過程では、実習施設の市町村別にグループを分け、地域診断に必要な情報収集と分析をし、中間発表、最終発表を行った。最終発表時に地域診断に対しての学びについてレポートを課した。その結果、地域診断の学びが記述された文章を読み取った結果、9項目の内容が含まれていた。

学生は、情報収集の量と質が地域診断結果に影響することや、情報内容からのアセスメント結果では不十

分であると考えていた。また地域診断内容について、実習中に修正する必要性を感じていた。学生は地域診断の演習を重ねながら、情報量に戸惑いながらも、グループ内での意見交換や発表を通して、健康課題の修正を行った。

表 1 活動論 I 終了時の地域診断の学び

学 び の 内 容	延べ件数
地域診断はエビデンスとなるデータ収集とアセスメントが必要である	7
地域診断には経年的かつ他の地域との比較が必要である	2
地域診断には地域住民の声が入ることが大切である	2
地域診断を行うことが地域の健康状態の向上につながる	1
地域診断は保健事業の基盤になる	1
地域診断は事業計画に結びつく	1
地域診断の資料を見える化することが必要	1
チームで地域診断に取り組むことが必要	1
地域診断の内容を実習中に修正することが必要	4

2. 公衆衛生看護学実習

公衆衛生看護学実習では、活動論 I の演習で抽出した地域の健康課題について、実習指導者や地域住民へのインタビュー等を通じて修正をその都度行った。また、市町村保健センター実習中にも中間発表、最終発表を行い、地域課題の分析に基づいて学生が考えた対策について討議し実習施設の指導者より助言を受けた。市町村保健センターでの実習終了時に提出されたレポートより、地域診断の学びについて記述された内容を読み取った結果、5 項目の内容が含まれていた。

その結果、学生は地域診断には住民ニーズと情報が根拠となって保健事業が展開されていることを理解することができ、家庭訪問や健康教育の実施時に住民にインタビューする機会を得て、健康課題の修正や対策について検討した。

表 2 実習レポートでの地域診断の学び

内 容	延べ件数
地域住民の声が地域診断に反映されている	4
地域診断は住民自らが解決できるための保健事業の展開につながる	2
地域診断の情報の数値と住民のニーズが関連している	1
地域診断は地域の人々が健康になるための基盤となる	1
地域の特性に合った保健事業が展開されている根拠が地域診断である	3

3. 「健康教育」「家庭訪問」といった保健師の直接的な住民サービスの活動が看護学生にとって理解しやすいものではあるが、「地域診断」には日々の保健師の活動と地域の健康を俯瞰する看護の必要性が含まれることを理解できたと考える。

IV. 今後の課題

活動論 I での地域診断の演習では、学生が地域診断に用いる地域の健康情報の多さと地域の健康状況の関連性が具体的に理解することが困難な様子であった。実習施設の指導者からの助言と家庭訪問などの地域の保健師活動を通して、学生自らが住民からの情報を踏まえて地域診断を行うことの必要性が理解できたと考えられる。「地域診断」の演習は地域を人々と環境を対象とした保健師の活動実践につながる能力を修得するためのプロセスであり、演習には保健師活動と地域診断と結び付けて理解させる目的があった。地域診断を演習のみで終わらずに、実習施設での修正と再検討を行うことにより、地域診断が統計や調査結果のみから健康課題を導くものではなく、住民の健康に関する知識や関心と関連づけて判断している現状が理解できたと考える。しかし、2週間の市町村保健センター実習では、学生の学びは健康課題の抽出と健康課題に対する現状の保健事業への参加までである。保健事業の評価までには至っていない。今後は活動論 I の演習・実習中の地域診断の修正等を通して、地域診断の学習を実践的に深められるような教育方法を検討していく必要がある。

文 献

- 厚生労働省 (2013). 地域における保健師の保健活動について
平成 21 年度 保健師動領域調査 (活動調査) の結果の公表 (2016), 厚生労働省, https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/hoken/katsudou/09/dl/ryouikichousa_h22 (2018-12-15)
- 平成 24 年度 保健師動領域調査 (活動調査) の結果の公表 (2016), 厚生労働省, https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/hoken/katsudou/09/dl/katsudouchousa_h24 (2018-12-15)
- 平成 27 年度保健師活動領域調査 (活動調査) の結果の公表 (2016), 厚生労働省, http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/hoken/katsudou/09/katsudouchousa_h27.html (2017-12-12)
- 厚生労働省 (2008). 「保健師教育の技術項目の卒業時の到達度」について.
- 金川克子 (2015). 地域看護診断第 2 版. 9-11, 東京大学出版会, 東京.
- 標美奈子 (2017). 標準保健師講座 1 公衆衛生看護概論第 4 版. 110-113, 医学書院, 東京.
- 牛尾裕子 (2014). 学士看護学基礎教育課程における地区診断の演習・実習教育の現状. 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要, Vol21, 37-45.
- 金屋佑子, 藤井広美, 杉崎紀子, (2016). 臨地実習における地域診断のプロセスを通して保健師学生が得た学び. 了徳寺大学研究紀要, 10 号, 219-226.